

研究機関：広島大学

研究課題名	クローン病に対する Kono-S 吻合の有用性の検討
研究責任者名	広島大学病院 感染症科 教授 大毛宏喜
研究期間	2016年10月(倫理委員会承認後)～2018年12月
対象者	2005年1月から2017年12月の間に、広島大学病院消化器外科でクローン病の腸管病変に対して吻合を必要とした手術を受けた患者
意義・目的	炎症性腸疾患であるクローン病の腸管病変では自己免疫による慢性炎症が原因で腸管の狭窄や穿孔を発症し手術治療を要することがあります。同疾患での腸管病変は脆弱であり、また術後も炎症の遷延などが原因で再手術することが珍しくありません。腸管の吻合方法には様々な方法があり、以前は端々吻合という通常の手縫い縫合で行っていました。しかし Kono-S 吻合が開発され、当科でも2009年より同吻合を用いた腸管再建術を施行しています。導入より9年経過しており、その吻合の有用性を検証することが目的です。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、年齢、病脳期間、術前治療、血液検査(白血球数、赤血球数、アルブミン値、CRP)、手術時間、出血量、術後合併症、術後治療などです。 (個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	なし
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5468 広島大学病院消化器外科 助教 嶋田徳光